

声

業界の



●上野原工業団地事業協同組合
理事長 守屋博文氏

業界の現況は？

現在の円高により、当工業団地でも影響が出ている企業が少なくありません。現在の為替相場は過去最安値を更新しており、その水準で停滞している状況です。一時的な円高であれば企業努力により対応は可能なのですが、この円高水準で停滞されると、企業側としても価格転嫁せざるを得なくなり、それが以前から続く過当競争とも相まって、仕事量が減少している状況です。この円高が続くと、私共の取引企業がコスト削減のため、新たな取引先として海外企業へシフトしていく可能性もあります。

また、これらにより心配されるのが、「海外への技術移転」です。現在では、海外移転をせざるを得なくなっている企業も出ており、それは日本のものづくり技術が海外へ移転されることを意味し、これにより日本全体の競争力が低下、更なる景気悪化を招きかねないと危惧しております。

今後の展開は？

今後の展開としては、まず日本の「ものづくり」の力を発揮する「新技術の開発」が必要だと思います。日本は昔から「ものづくり」に関して、他国にも負けない力がありました。今こそ、これらの力を「新技術の開発」に活かしていくべきだと思います。また、それに併せて、付加価値の高い製品を製造していくことも大事だと考えております。＋αの製品を生むことにより、価格競争だけではない「本物の価値」を製品価格として打ち出すことが出来るのだと思います。

ただ、現在のように海外への技術移転が進行している状況下では、「新技術」や「＋αの製品」がすぐに海外に流れてしまい、再び日本の企業は厳しい状況に陥ることになると思います。それらを防ぐためには、「これら「新技術」や「＋αの製品」を守る」ことが大事だと思います。今こそ、技術や情報の重要性を再認識し、これら知財を守る術を身につけることが必要だと思います。